

クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔医療安全管理部門〕

指標名

RRS (Rapid Response System) の積極的活用の推進

※RRS とは、急変前の兆候を捉え、急変を未然に防止するためのシステム

目標・ゴール

RRS 起動基準に該当したタイミングで RRS が起動できる

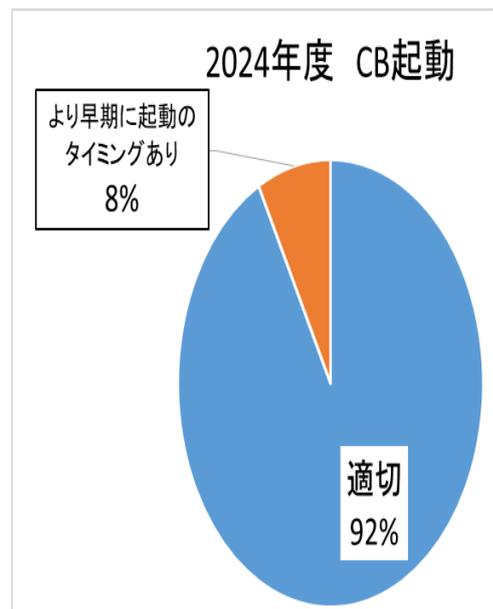
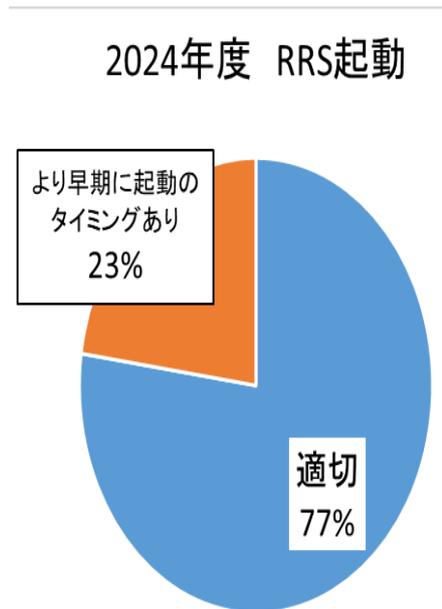
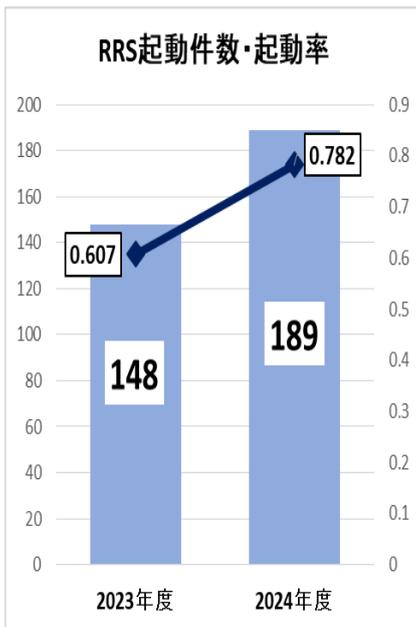
※RRS 起動症例・コードブルー起動症例を対象とする

目標・ゴール達成による効果

80%

目標・ゴールに対する成果の状況

RRS・コードブルー起動症例において起動のタイミングが適切な症例は81%であった。



目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

- S :大幅に目標を上回った
- A⁺:目標を多少上回って達成
- A :目標を達成
- B⁺:目標を少し下回った
- B :目標を下回った
- C :目標を大幅に下回った
- :外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

RRS 起動症例 189 件であり、RRS 起動率は 0.782‰であり前年度より 1.28 倍と増加した。起動のタイミングに関しては 77%が適切（前年度と同条件下）であった。コードブルー（以下、CB）起動症例は 64 件であり、起動のタイミングに関しては 92%が適切（前年度と同条件下）であった。RRS・CB 症例の総起動数は 253 件、RRS 症例は RRS 起動基準に該当してから起動するまで 3 時間未満の症例、CB 症例は起動前 6 時間未満の症例を「適切」と評価した。その結果、RRS ; 146 件、CB ; 59 件が適切に起動され 81%の達成率となった。

今回、CB 症例を検証すると起動前 1 時間未満で RRS 起動基準に該当している症例が 80%であり、4 時間未満まで拡大すると 92%の症例が該当していることが判明した。RRS 起動基準に該当してから CB に移行するまで 1 時間未満の症例が 80%であることを鑑みると、より早期の起動が必要と考えられた。

次年度は検証条件を変更し、目標値「80%」に設定し活動していく。